

授業案⑱ 消費者トラブル予防授業（中学生向け）

1 授業の目標

- ① 「消費者トラブル」の意味を知り、それが身近にあることを理解する。
- ② SNS等の典型的なDMがどのような目的で送られているかを知る。
- ③ 闇バイトの入口が巧妙化しており、一度足を踏み入ると抜けるのが難しく、単に被害者になるだけではなく加害者になってしまうことを知る。

2 授業の流れ（1コマ50分）

段階	学習活動	指導上の留意点
■導入 自己紹介と授業の意義説明 (1分)	○講師の自己紹介を行い、本授業の目的と意義を簡単に説明する。	★「消費者」とはどのような意味か、ネット通販で偽物を買わされることなど身近な問題であることを具体例で説明する。
■導入 「消費者」の意味説明 (2分)	○「消費者」とは何かについて定義を述べ、具体的な例を挙げて説明する。例：ネット通販でのトラブル（偽物を買わされる等）	
■導入 「消費者被害」の具体例説明 (2分)	○身近な消費者被害の具体例を挙げて、その深刻さを伝える。 例：偽ブランド品の購入、詐欺メールの被害	
■講義① DMの事例紹介 (2分)	○SNSでよく見かけるDMの事例を紹介する。 例1：簡単な作業で1時間1万円 例2：メッセージを送ってくれた人全員に10万円を配布	★実際に自分に来たDMをスクショでスライドに貼るなどして具体的に紹介する。
■講義① 具体的な例の提示 (3分)	○実際に自分に来たDMのスクリーンショットをスライドに貼り、具体的に紹介する。	
■GW 事例検討 (3分)	○紹介した事例について、メッセージを返信したらその後どのような展開になるかをグループで検討してもらう。	
■GW 意見交換 (2分)	○グループ内で意見を交換し、どのような結果が予想されるかをまとめる。	

■質疑 発表 (5分)	○グループワークの結果を何人かに発表してもらう。	
■質疑 質疑応答 (5分)	○発表内容に対して、他の生徒や講師から質問を受け付ける。	
■講義② 事例1の説明 (5分)	○受け子、かけ子、出し子の役割を説明し、このような役割を与えられる可能性について解説する。 ○一度加担してしまうと、犯罪者から脅され、抜けられなくなることを説明する。	★本人としては犯罪の認識がなくても、少しでもおかしいと思う点があれば加害者として扱われてしまうおそれがあることを説明する。
■講義② 犯罪者になる リスク (5分)	○本人が犯罪の認識がなくても、少しでもおかしいと思う点があれば加害者として扱われる可能性があることを説明する。	★こちらも同様に、知らなかった、が通用しないおそれがあることを説明する。
■講義③ 事例2の説明 (3分)	○10万円が当選したと連絡があり、振込先口座を伝えたところ、振り込め詐欺の振込先口座に指定される可能性があることを説明する。	★中学生だとまだアルバイトの経験がなく時給の概念が理解できないかもしれない。とにかく、自分だけ得をしようというずるい心が狙われ、手を出してしまうとその後ろめたさから誰にも相談できなくなってしまうことを説明。
■講義③ 犯罪への加担 リスク (2分)	○出し子として利用されることもあり、犯罪に加担してしまうリスクがあることを説明する。	
■講義④ 怪しいDMの 見分け方紹介 (3分)	○地域の最低賃金などを説明し、報酬が相場より著しく高い場合や、ノーリスクでリターンがもらえる話には必ず裏があることを説明する。	
■講義④ 注意点の強調 (2分)	○中学生がアルバイトの経験がないため、時給の概念が理解できない可能性を考慮し、ズルい心が狙われるリスクを説明する。	
授業のまとめ (5分)	授業のポイントを提示	